

平成29年2月13日（月）

校長 「保坂 秀人」

記述者 職名（教頭）「竹野 貢造」

◎学校教育目標

「知・徳・体の調和のとれた 人間性豊かな子どもの育成」

- ①確かな学力を身につけた子ども
- ②心の豊かな子ども
- ③明るくたくましい子ども

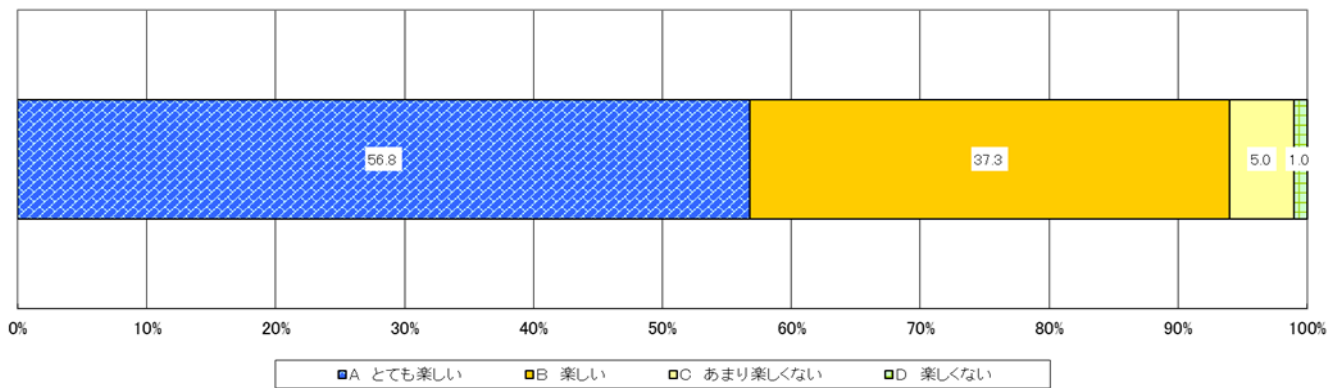
◎学校経営方針

- (1)全職員は、児童・保護者・地域の実態を的確に把握して、学校教育目標の実現に向けて努力する。
- (2)「生きる力」をはぐくむ適切な教育課程の編成と実施に努めるとともに、学習指導要領に則り、指導計画の改善と充実に努める。
- (3)教育活動を推進するにあたり、常にPDCAに基づいた振り返りと改善を行い、その充実に努める。
- (4)授業時数を十分に確保し、指導内容・指導法の工夫などにより学習の基礎・基本の定着を図る。
- (5)言語活動の充実と活用型学習活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力の向上をめざす。
- (6)体験学習を重視し、地域の人・文化・自然等の教育財産の活用を図り、自ら学ぶ意欲や共に学び合う態度の育成及び実践力の向上に努める。
- (7)より深い児童理解に努め、指導方針や内容の共通理解を図る中で適切な生徒指導にあたる。
- (8)特別支援教育についての啓発を図り、個々のニーズに応じた適切な指導が行える校内体制の充実に努める。
- (9)家庭や地域社会との積極的な交流体制の充実に努め、地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりをめざす。
- (10)学習環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと、健康・安全教育を推進する。
- (11)教職員の資質の向上を図るとともに、職員の長所を生かし、協働して教育活動に専念できる職場づくりに努める。

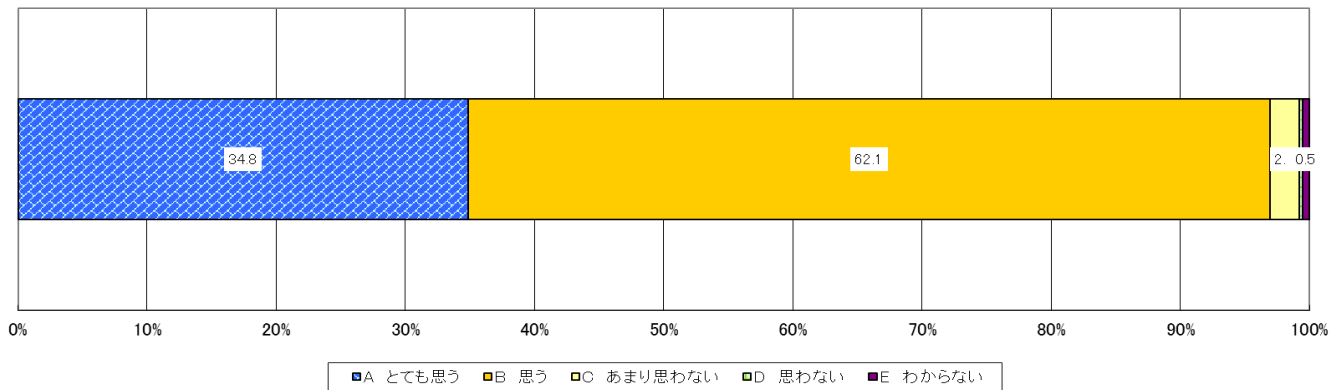
1 全体評価

- ・教職員の自己評価から、職員は教育活動及び学校運営（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）について、「そう思う」「ややそう思う」といった肯定的な回答をした割合は、平均すると95%以上であった。これは学校経営方針がよく理解され、一年間を通じて教育活動や分掌処理に努めたからであると考ええる。
- ・児童アンケートの「学校が楽しいですか」という設問に対し「とても楽しい」56.8%、あるいは「楽しい」37.3%と回答し、合計94.1%で、前年度と同様90%を超えている。低学年に比べ高学年においてはその割合が若干下がるものの、学校生活に満足していることがうかがえる。なお、保護者アンケートの「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う」の設問に対しても、「とても思う」「思う」が合わせて96.9%と、本校の教育活動に対し概ね理解と満足をいただいている状況がうかがえる。
- ・授業については、「算数の授業の内容はわかりますか」という設問に対し94.7%の児童が「よくわかる」「わかる」と回答している。しかし、「授業中に質問や意見を言っていますか」という設問に対して、「よく言っている」「言っている」の合計は、71.2%であり、昨年度同様に他と比べて高い評価とは言えない。今後も主体的に学習に臨む態度を引き続き育成していく必要がある。

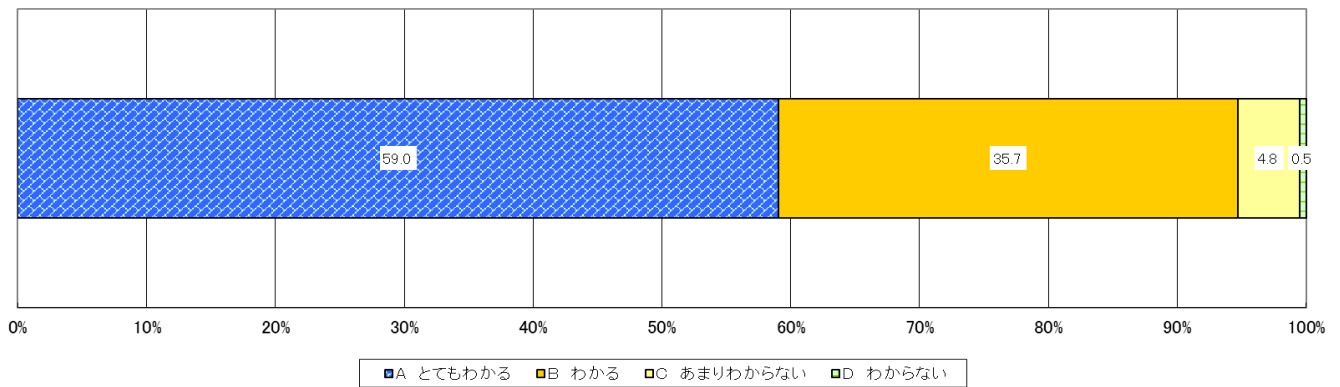
Q1 学校は楽しいですか。



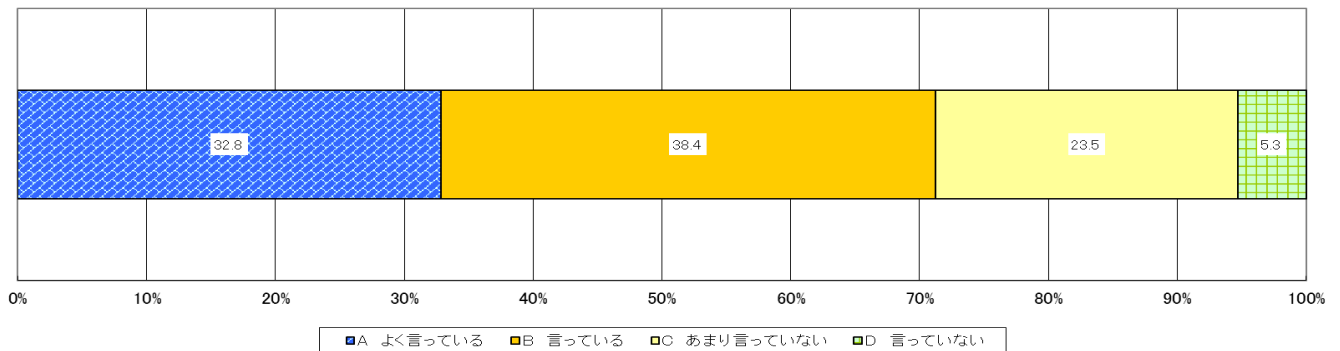
Q1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。



Q8 算数の授業の内容はわかりますか。



Q11 授業中に質問や意見を言っていますか。

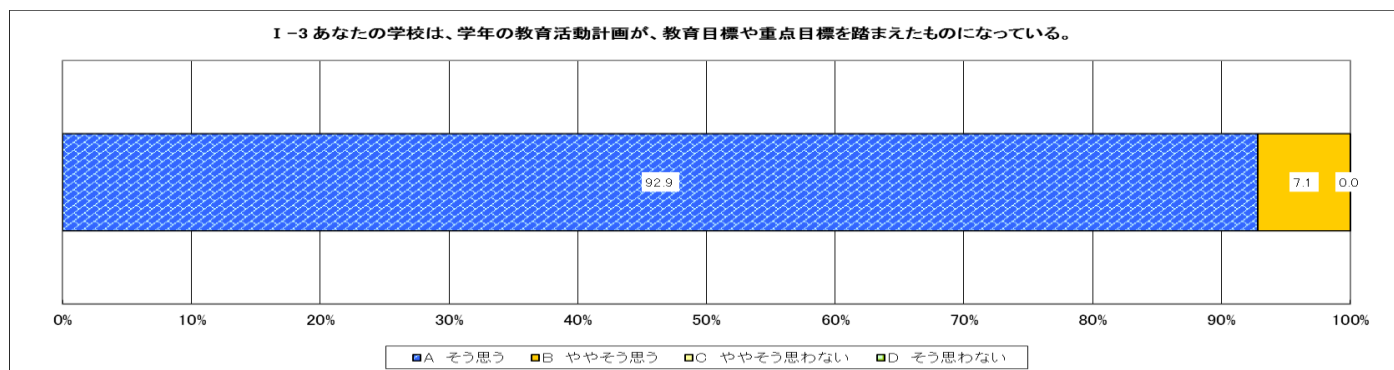
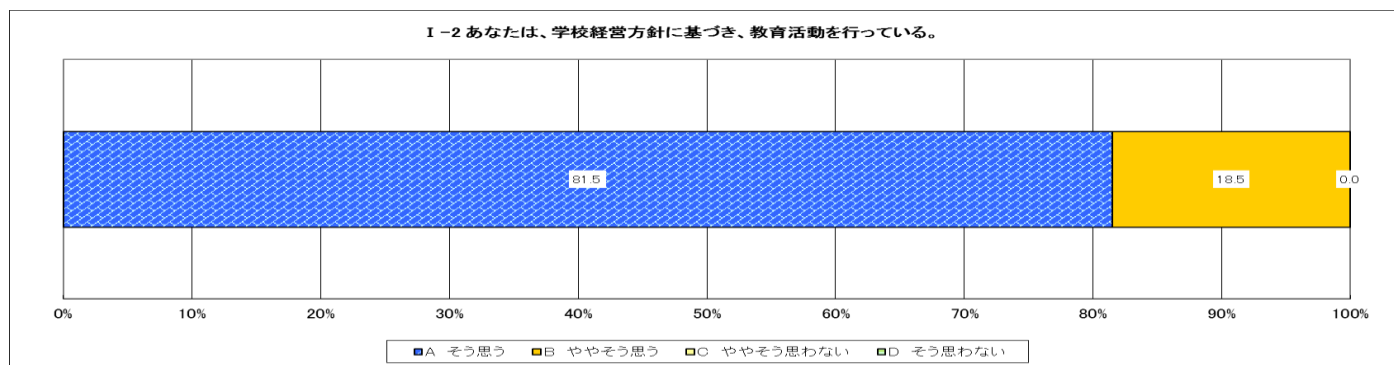
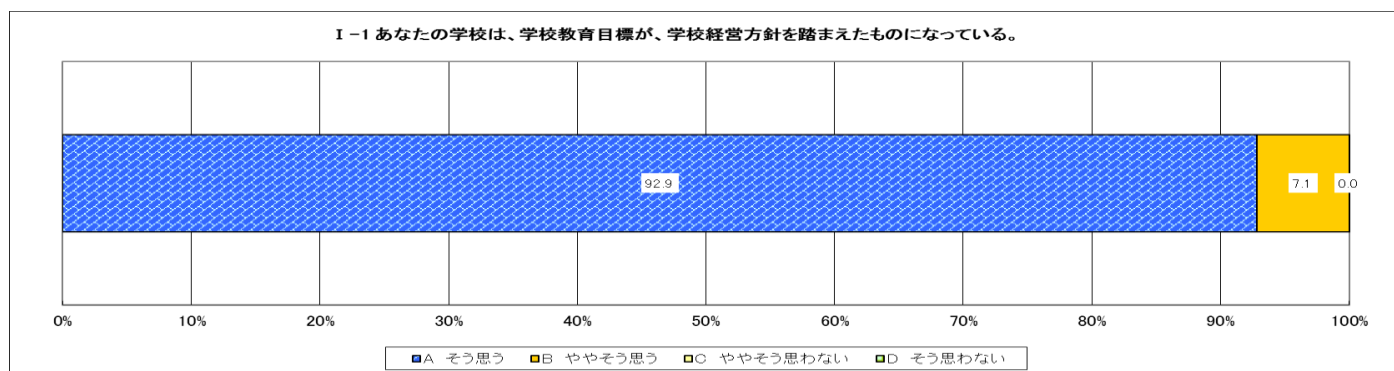


2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

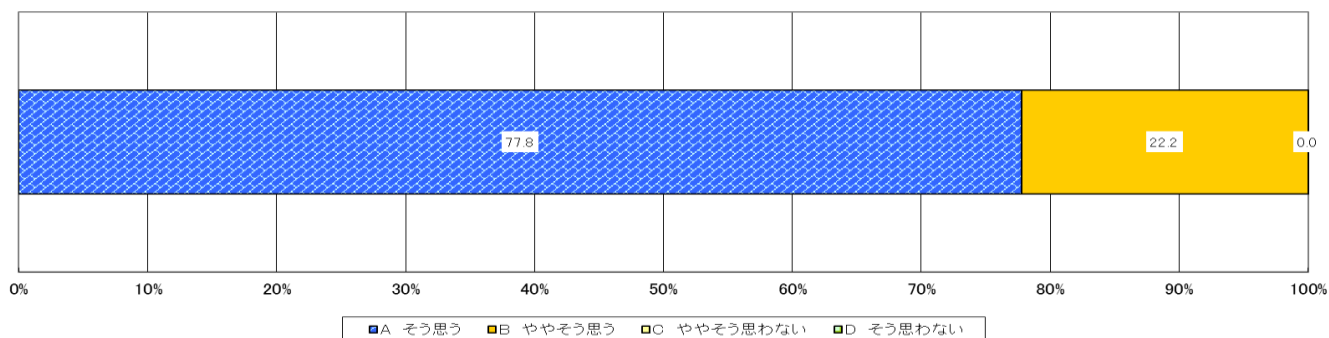
I 学校教育目標に関して・学校経営について

<達成状況>

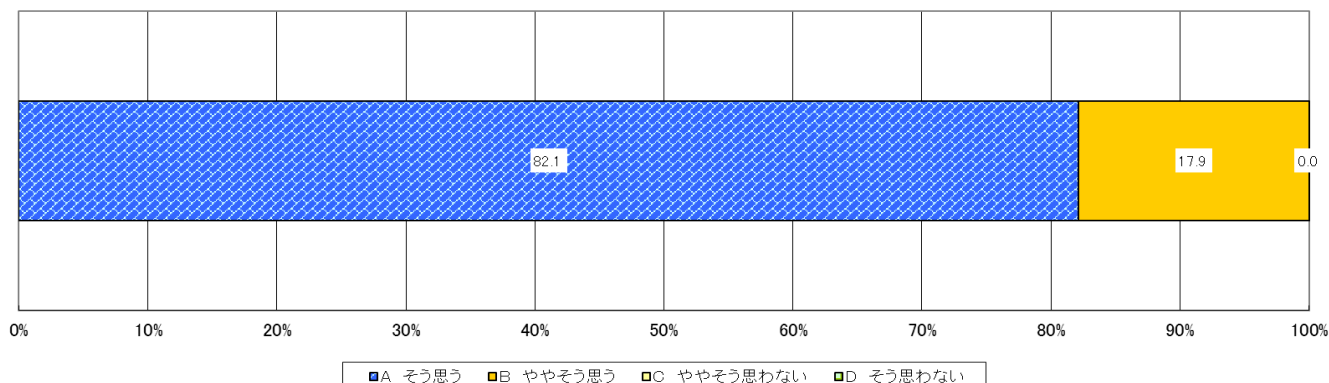
- ・教職員の自己評価の設問「あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」、「あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っている」、「あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている」「あなたは学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている」で、「そう思う」「ややそう思う」が合わせていずれも100%となっている。このことは、日常の教育活動が常に学校教育目標達成に向け、学校経営方針の重点を受けて実践されていることの表れであると考えられる。
- ・P→D→C→Aサイクルで「教育活動が取り組まれている」「生かした教育活動を行っている」の両設問では、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて、ともに100%であった。これは、常に教育活動を進化、改善しようとしている結果の表れと考える。



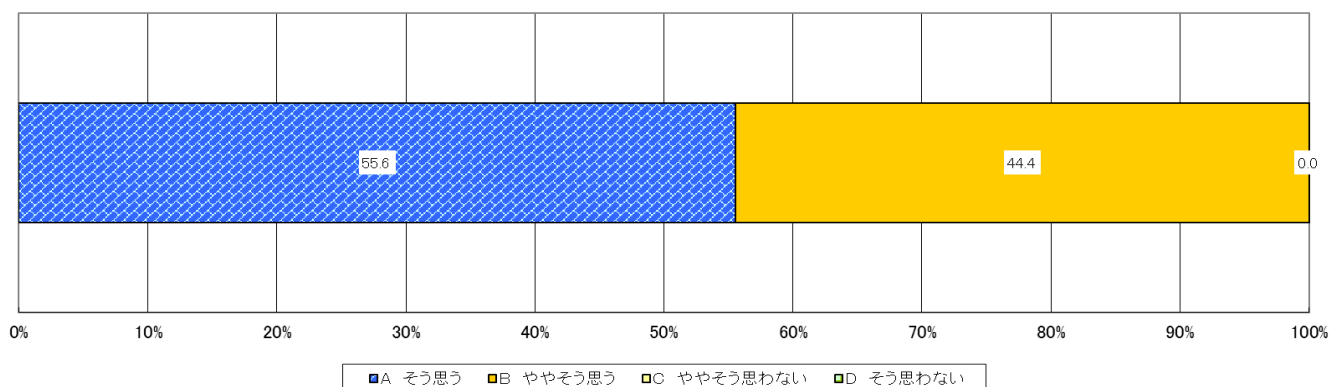
I-4 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。



I-5 あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。



I-6 あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。



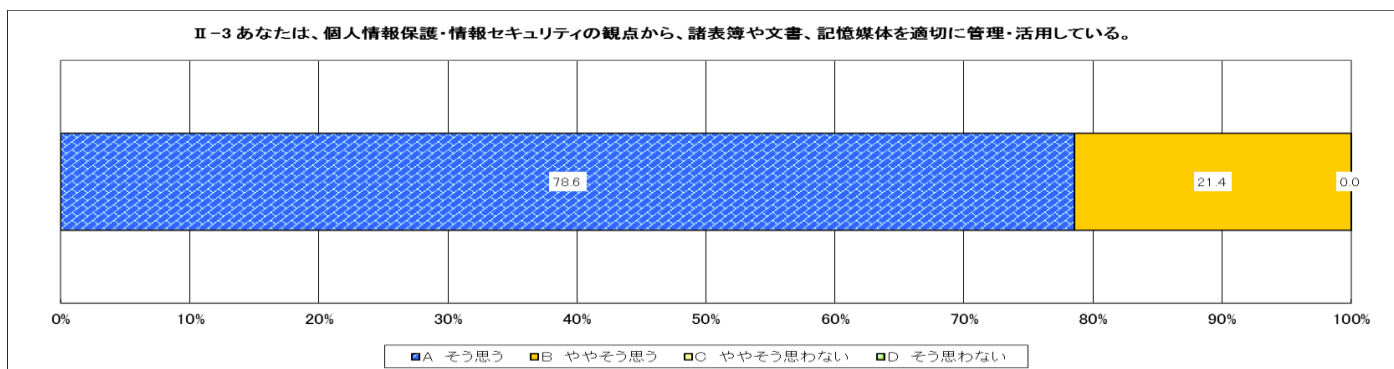
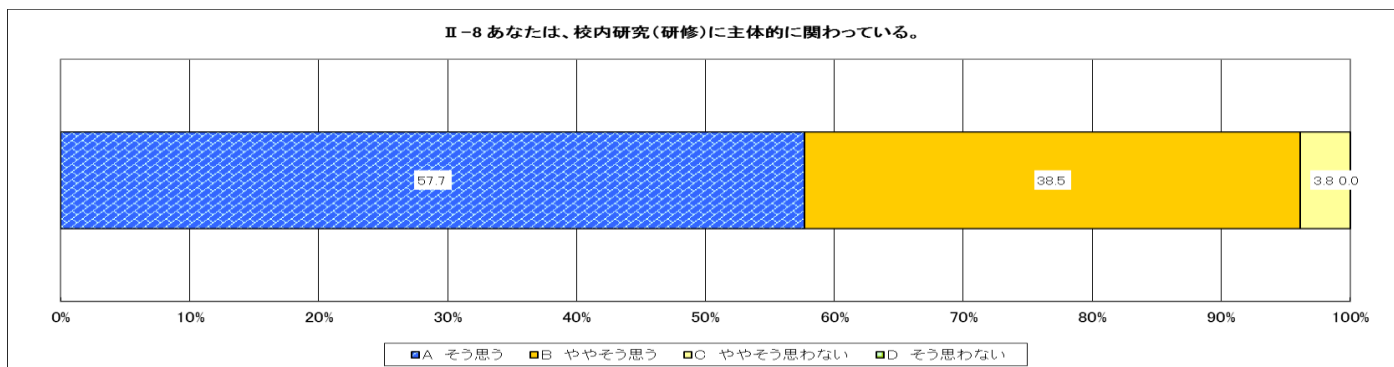
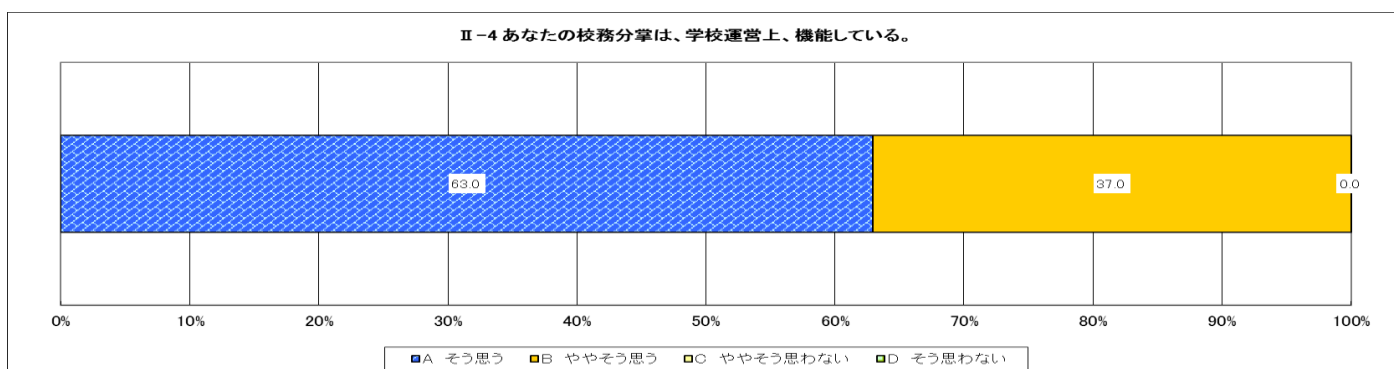
＜改善策＞

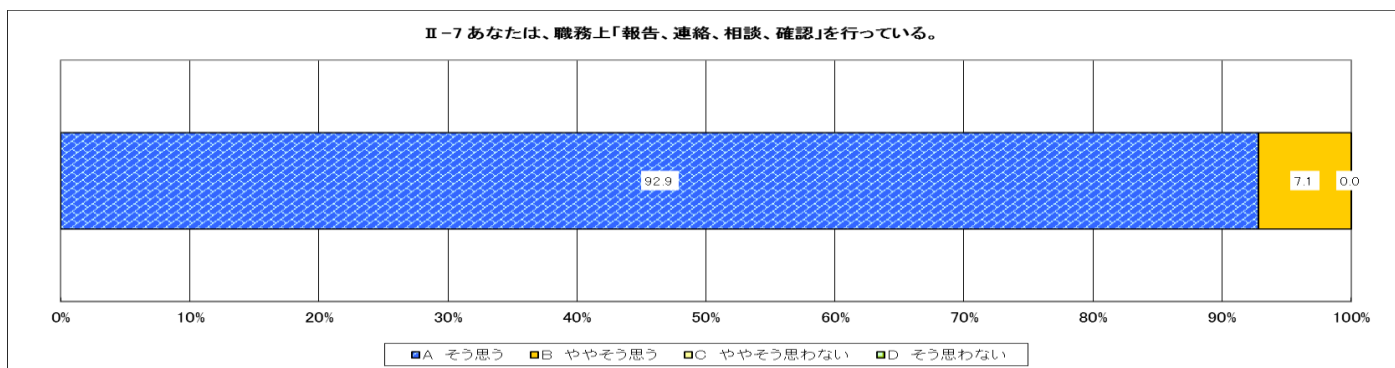
- ・学校教育目標「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成」の達成に向け、確かな学力の定着については、校内研究を中心として、指導法の更なる改善に向けた実践的な研修（研究授業中心）を、また豊かな心の育成については、道徳の時間の指導方法の工夫改善、自然体験や勤労・奉仕体験等の体験活動を教育活動全体へ適切に位置づけるようにしていく。そして、健やかな体の育成については、体力テストの結果や児童の実態を踏まえて、引き続き異年齢集団や全校での活動を工夫し、運動の日常化を図りながら体力の向上を図る。
- ・学校教育目標設定にあたっては、これまで以上に地域や学校、児童の実態に即した教育目標を設定し、特色ある学校づくりの推進に努める。
- ・P→D→C→Aサイクル機能を生かした組織マネジメントの確立に向けた取組は、今後も推進していく必要がある。

Ⅱ 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

<達成状況>

- ・校舎内外の施設設備の定期点検や日常の点検結果に基づく修繕等については、校舎が老朽化傾向にあることもあり、職員の意識も高く、事故防止に積極的に取り組んでいる。しかし、危機管理、特に不審者侵入に関しては、学校施設の状況（門扉の施錠や防犯設備）に引き続き課題がある。
- ・教職員アンケートで「校務分掌は学校運営上機能している」の設問に対し、「そう思う」「ややそう思う」の回答を合わせると100%であった。また、「校内研究（研修）に主体的に関わっている」の設問に対しては、「そう思う」「ややそう思う」の回答を合わせると96.2%であり良好な状況であることがわかる。
- ・教職員の評価で「あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している」の設問に対し、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%であった。個人情報等の取扱いに関して職員の意識の高さがうかがえる。
- ・「あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている」の設問に対し、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%であった。軽微なことも含めて積極的に報告、連絡等が行われている状況にある。





＜改善策＞

- ・事故防止については、細部にわたる安全点検と迅速な改善を今後とも継続的に行う。担当による定期的な点検に加えて管理職が校内巡視をする機会も増やしていく。また、交通事故防止（含む通学路の安全点検）や水難事故防止（着衣泳等）、熱中症対策、有害紫外線対策、感染症対策等に関わって、児童に対する安全教育の徹底を引き続き図っていく。特に、ここ数年実施している水泳シーズン当初での着衣泳指導は来年度も継続して行うことで子供たちの事故防止にかかる意識を高めていきたい。
- ・危機管理については、マニュアルの充実（東日本大震災を受けての変更点の確認）を行ってきているが、細部の確認を今後も実施していく必要がある。事前予告なしの避難訓練等をもとに児童の安全な行動の取り方や対処法、避難場所の確認なども実践的に実施していく。さらに保護者や地域、関係機関と連携しての実効性の高い防災訓練と防災教育を積極的に実施する。
- ・防犯講話を2年生、薬物乱用防止教室を5年生、交通安全に係る指導を1年生と3年生で実施した。外部指導者を招聘することで効果的な学習になっている。
- ・校務分掌の整備と各学年や分掌間の連絡調整と情報交換を緊密に行う。また、分掌分担は、個々の能力、実績、意欲を加味し適材適所に今後も配置する。
- ・甲斐市から2年間の研究指定を受け、敷島小中4校による連携をテーマとした研究に取り組んできた。研究1年目として得られた成果を積極的に日常の教育活動に生かしていく。
- ・職員会議は、今後ともその役割である「学校経営方針の周知徹底」「学校課題に対する共通理解」「情報交換を通じた連絡調整」を図る場として、その機能を効果的、効率的に活用していく。

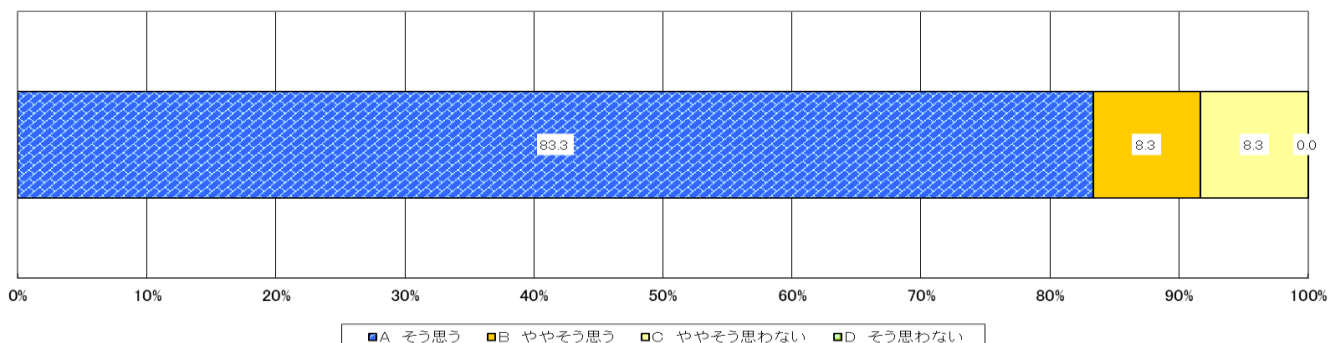
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

＜達成状況＞

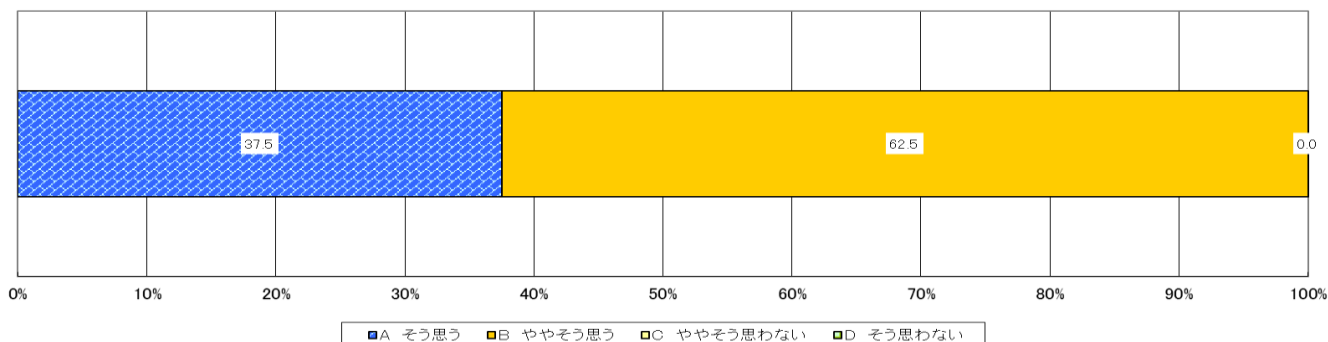
- ・教職員アンケートで「民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている」「個に配慮した授業を行っている」の設問に対し、両設問とも「そう思う」「ややそう思う」を合わせた数値は、90%以上であった。これは、絶えず学習習慣づくりと個に応じた指導の工夫を心がけている表れであると考えられる。
- ・上記のことは、児童アンケート「学校の授業は楽しいですか」の設問に対し、「とても楽しい」が46.0%、「楽しい」が43.7%、「先生はよく授業を教えてくださいか」に対し、「よく教えてくれる」が81.7%、「教えてくれる」が16.1%、といった結果と概ね合致している。
- ・また、保護者アンケートで「お子さんは、授業の内容がわかっていると思う」「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う」の両設問に対し、「とても思う」「思う」を合わせた数値は、それぞれ87.3%、95.5%であり、本校教員の学習指導に対し、概ね満足してもらっていると捉えることができる。
- ・宿題については、保護者アンケート「お子さんは宿題を忘れずにしますか」の設問に、「いつもしている」「だいたいしている」が合わせて96.7%であった。同様の児童アンケート「宿題を忘れずにしています」

か」の設問に対し、「よくしている」「している」が合わせて90.6%であった。また、保護者アンケートで、宿題以外の課題に対しては、「宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか」では、73.5%が「いつもしている」「だいたいしている」と回答している。宿題は忘れずに取り組めるが、それ以上の学習となるとその割合は7割程度であることがわかる。

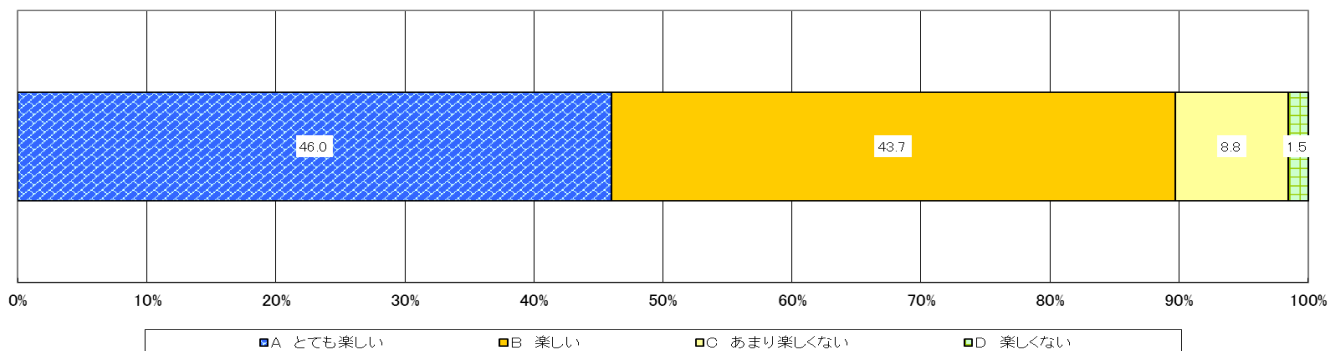
Ⅲ-1 あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。



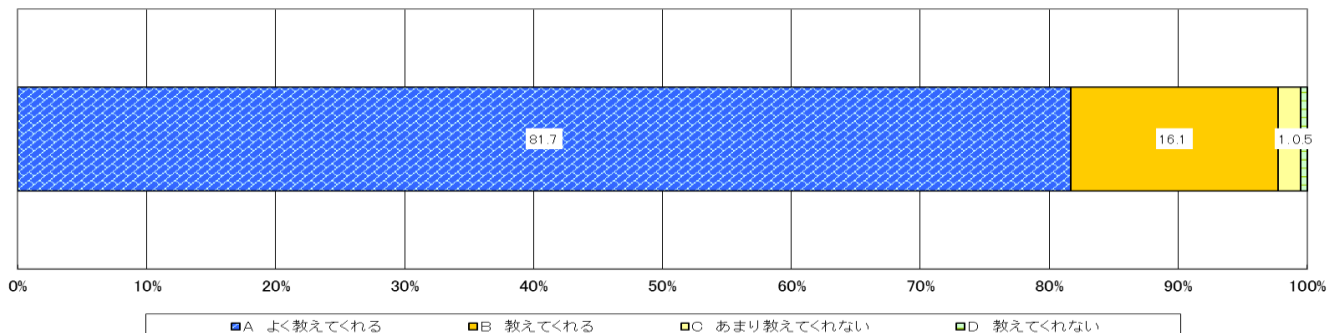
Ⅲ-4 あなたは、個に配慮した授業を行っている。



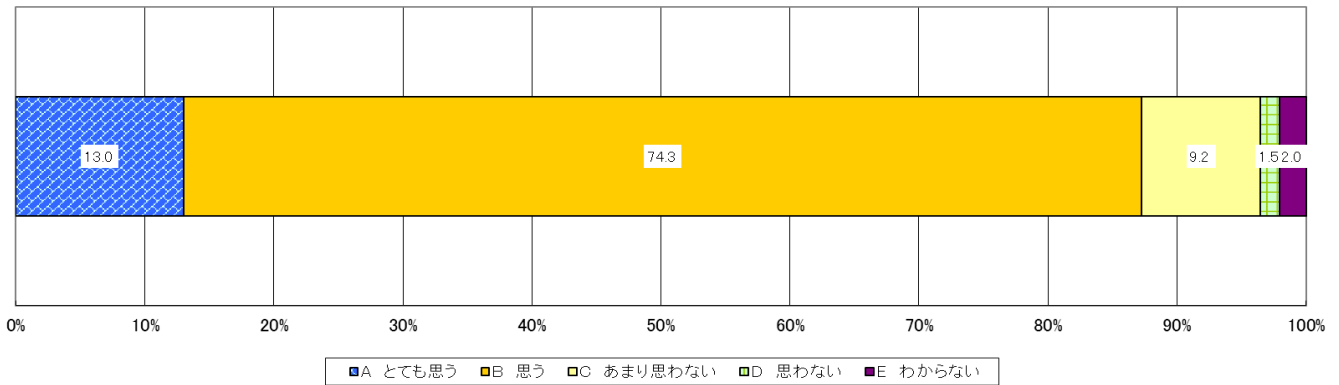
Q5 学校の授業は楽しいですか。



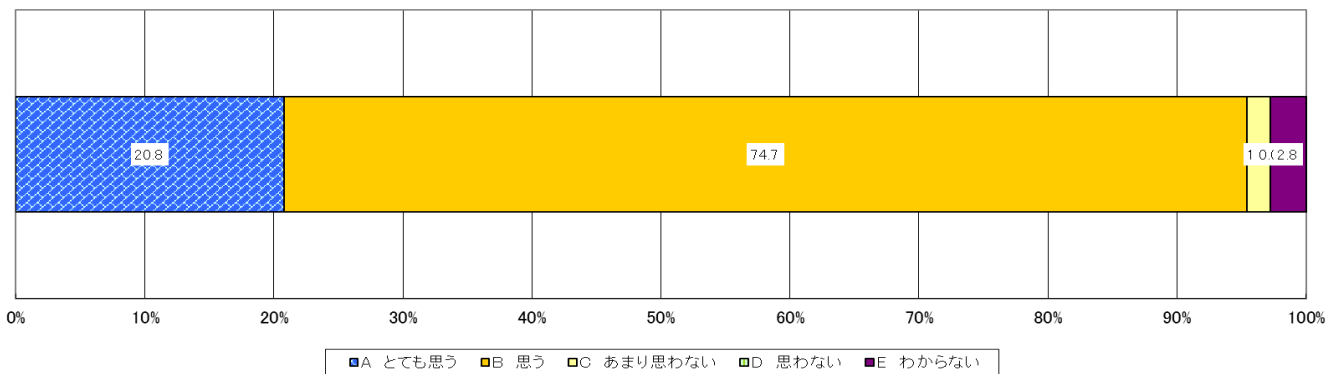
Q6 先生はよく勉強を教えてくださいますか。



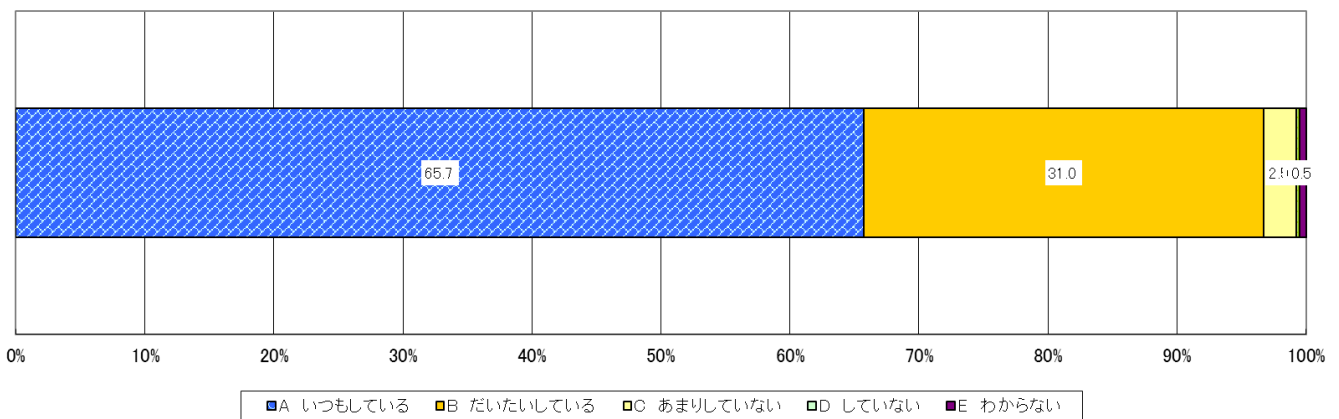
Q8 お子さんは、授業の内容がわかっていると思う。



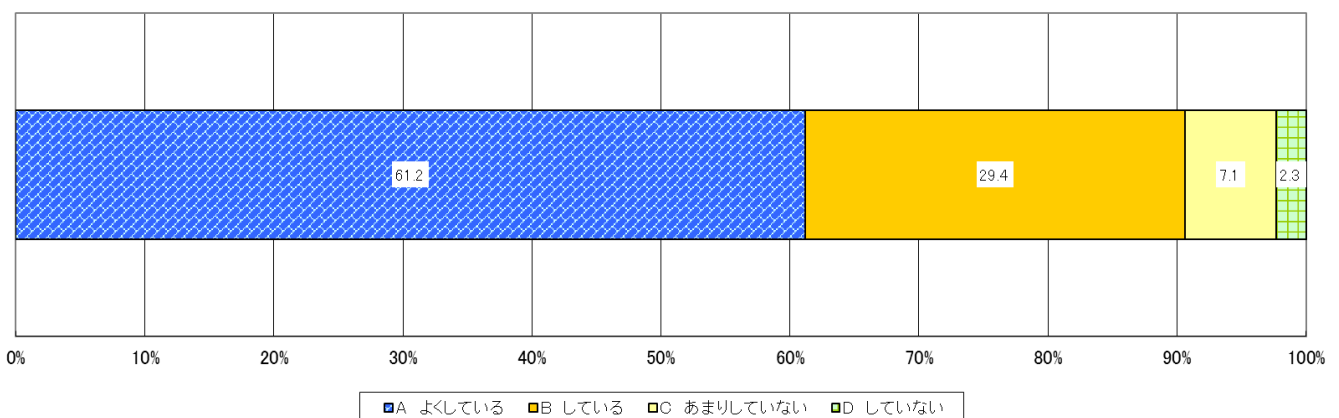
Q11 学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。

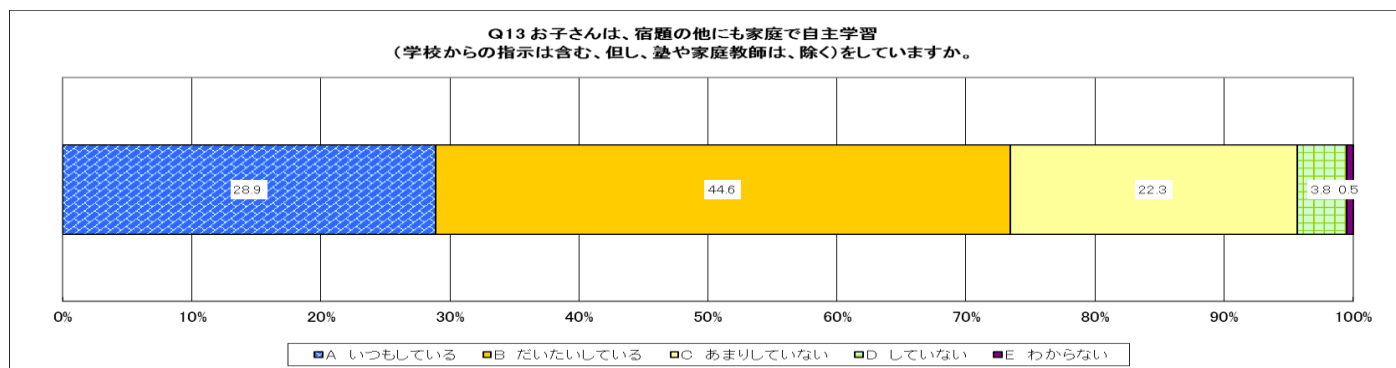


Q12 お子さんは、宿題(課題)を忘れずにしていますか。



Q12 宿題を忘れずにしていますか。





＜改善策＞

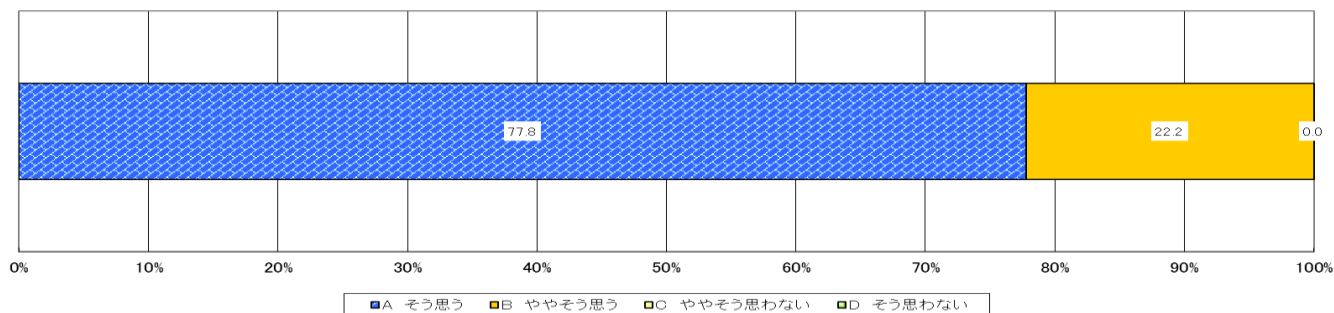
- ・確かな学力を定着させるために、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学習態度の一層の育成を図る。このため、体験的な学習や問題解決的な学習、言語活動を教育活動へ適切に位置づけるようにする。言語活動の充実に関しては、言語環境づくり（会話、あいさつ、放送）や意図的な言語活動の日常化を図る取組（1分間スピーチ、学習感想等）を更に充実させていく。
- ・主体的な学習態度の育成については、自己評価や相互評価、ポートフォリオ（学習経過資料等）などの多様な評価から、自分自身の良さや成長の様子を積極的に評価することにより児童の学習意欲を引き出していく。
- ・家庭学習については、発達段階に応じた内容と量を考える中、家庭と連携し習慣化し、学年が上がるに従って、質の高い自発学習へ取り組む姿勢を身につけさせていく。そのためにも引き続き「自学のすすめ」の取組を積極的に行い、主体的な学習習慣を一層身につけられるよう家庭にも協力を得ながら推進していく。

Ⅳ 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

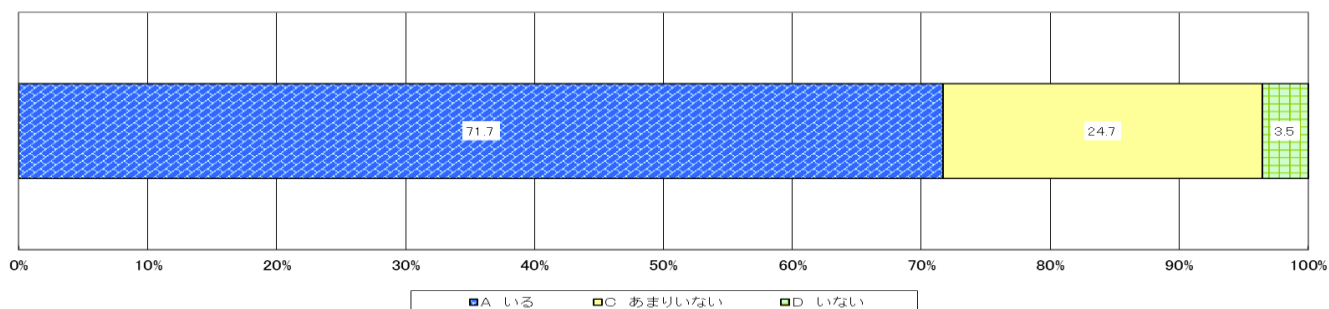
＜達成状況＞

- ・生徒指導に関連する設問「教師と児童との関係～相談できる先生がいる」に対し、教職員は「児童理解のためのコミュニケーションを図っている」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%であるのに対し、児童は「もしこまったことがあったら、相談できる先生がいますか」の設問に対し、「いる」が71.7%であった。さらに保護者は「お子さんのことで相談できる先生がいますか」の設問に対し、「いる」が73.0%となっている。児童や保護者目線で考えた場合、改善の余地があることがうかがえる。
- ・規範意識に関連する設問「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる」に対し、教職員は「指導に取り組んでいる」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%であるのに対し、児童は、「学校のきまりや約束ごとを守っていますか」に対して、6.9%が「あまり守っていない」「守っていない」と回答している。また、保護者アンケート「ご家庭では、お子さんのしつけに力を入れている」の設問に、「よく入れている」、「入れている」が合わせて96.2%であり、「学校は子ども達の間違った行動に対して、指導していると思う」の設問に、「よく指導している」「指導している」が合わせて87.1%であった。
- ・児童アンケートで「将来の夢や目標を持っていますか」の設問に対し、62.3%が「しっかり持っている」と回答している。その割合を学年で比較すると、学年が上がるに従って低くなる傾向が見られる。低学年においては、設問が意図する回答を得ることが難しい点もあると思うが、学年が上がるに従って割合が下がるのは、自分の持つ能力・適性と職業について、真剣に考え始めていることの表れではないかとも考えられる。

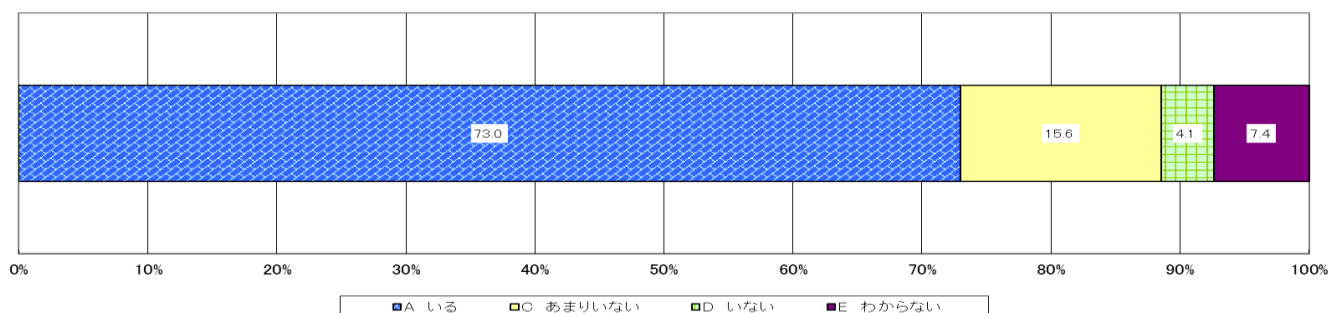
Ⅳ-1 あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対:児童生徒)



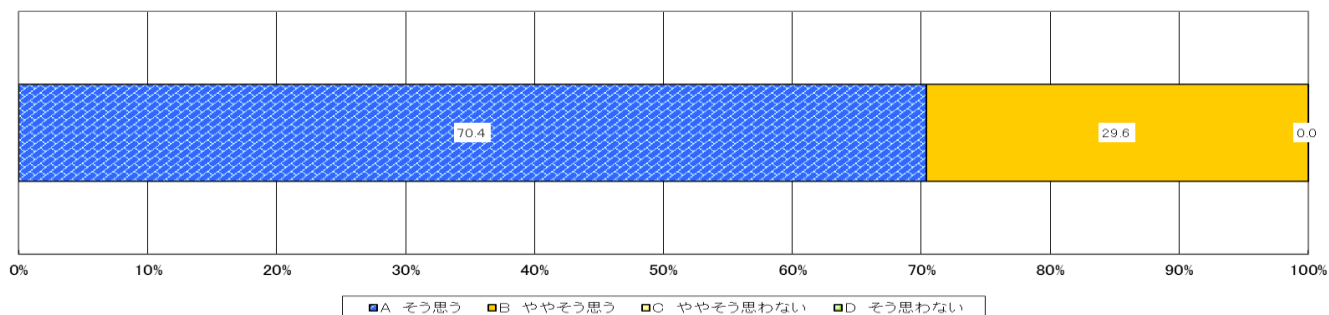
Q10 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。



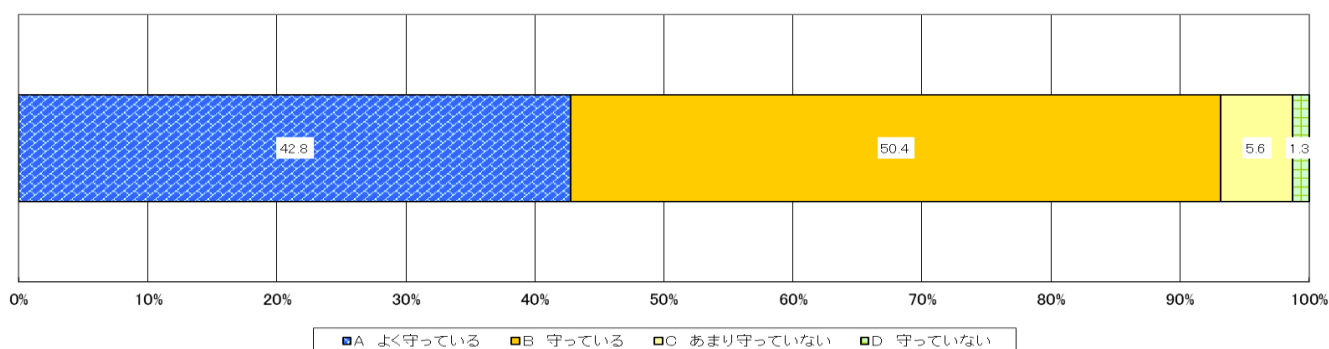
Q15 お子さんのことで、相談できる先生がいますか。

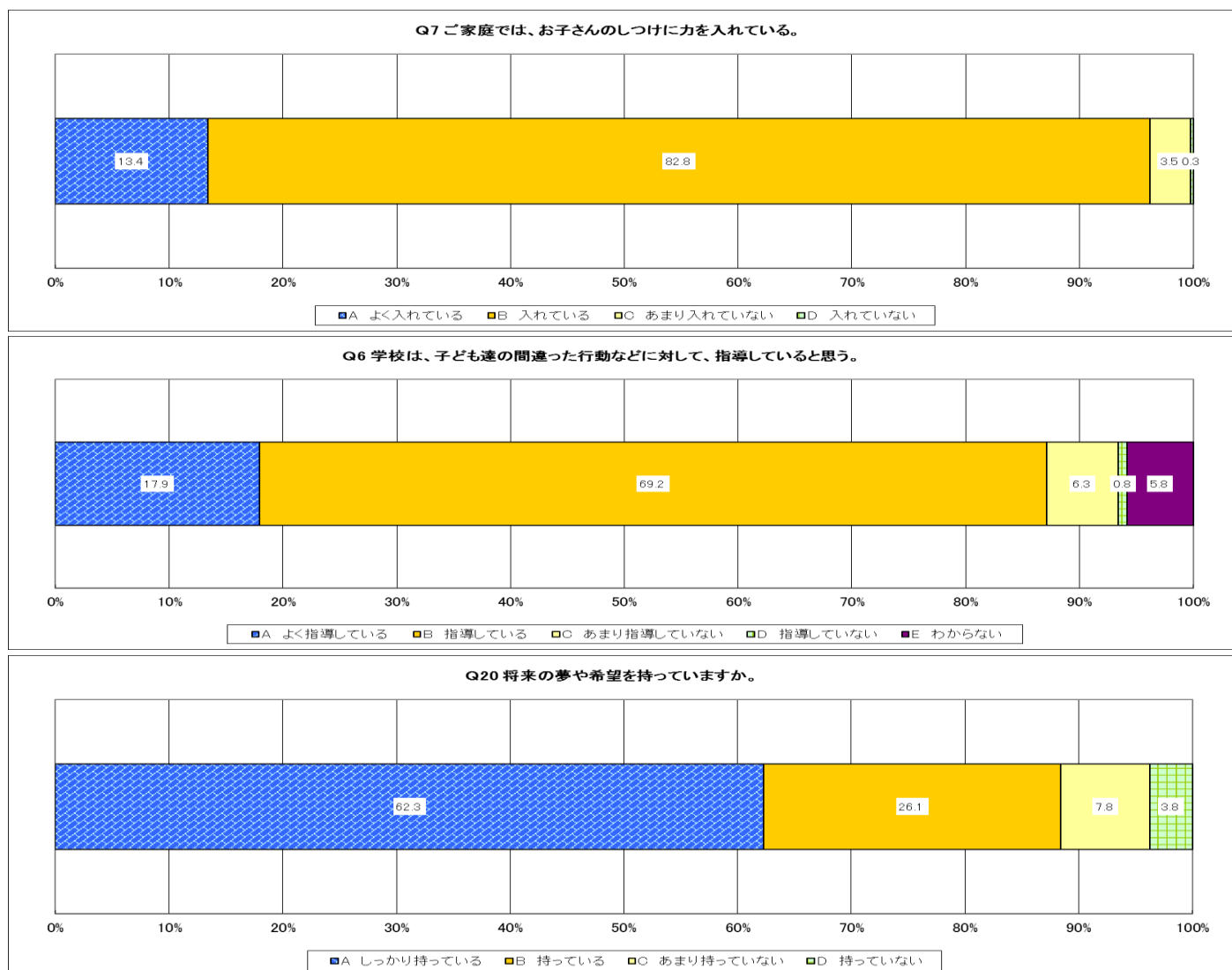


Ⅳ-2 あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。



Q21 学校のきまりや約束ごとを守っていますか。





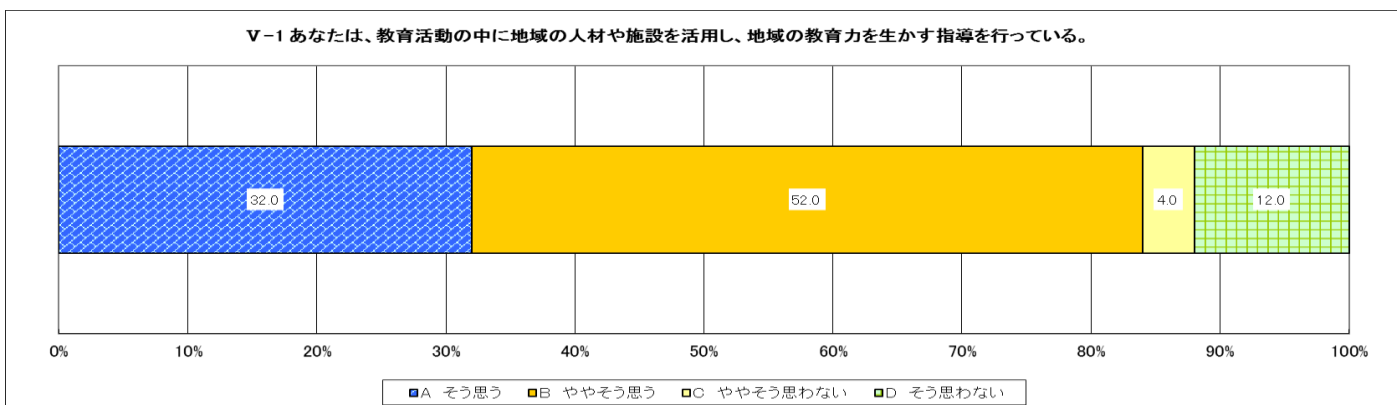
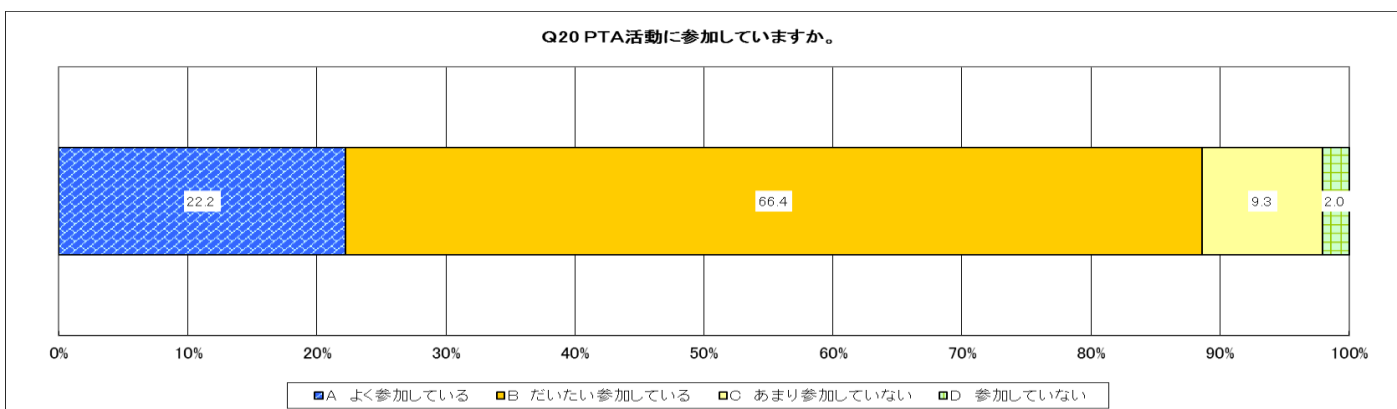
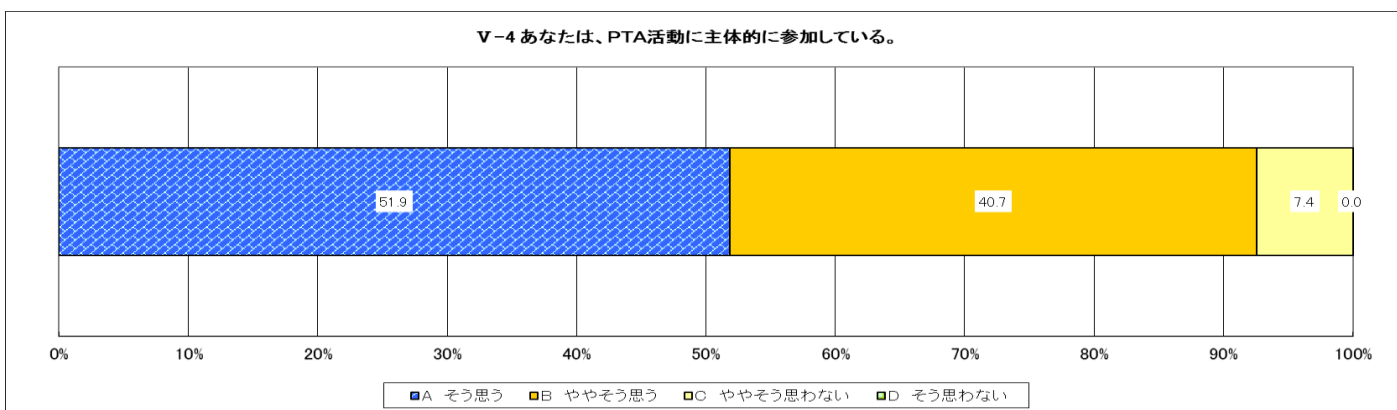
＜改善策＞

- ・日頃から学級経営の充実を図るとともに、児童理解については、カウンセリングマインド（受容、人格の尊重、共感的理解）の手法での対応で児童との信頼関係を深めていく。
- ・家庭との情報交換や教育方針の共有を一層図るとともに、学習や生活上の個別相談、あるいは家庭訪問等により問題が生じた場合の早期対応、早期解決を図る。その際、必要に応じて、S C（スクールカウンセラー）S S W（スクールソーシャルワーカー）などの専門家や教育委員会といった関係機関と連携していく。
- ・規範意識や思いやりの心などの育成は、道徳の時間を要とし教育活動全体に位置づけて行う。特に集団宿泊体験、自然体験、奉仕体験など経験を通した道徳的实践力を育成する。また、地域の人々や高齢者、障害者との交流を促進する。
- ・小中連携の研究を生かし、敷島地区および本校児童に期待される道徳的实践力、不足していると思われる道徳内容について検討し、授業改善に努めていく。
- ・望ましい勤労観や職業観の育成や社会を自立して生きる力をはぐくむため、教育活動全体にキャリア教育（人間関係形成能力、情報活用能力、意志決定能力、将来設計能力等の育成）を適切に位置づけることはもちろん、ものづくりや生産活動といった体験活動を位置づける。また、家庭や地域と連携して、働くことの意義、家の手伝い、地域の奉仕活動等への参加促進を図る。

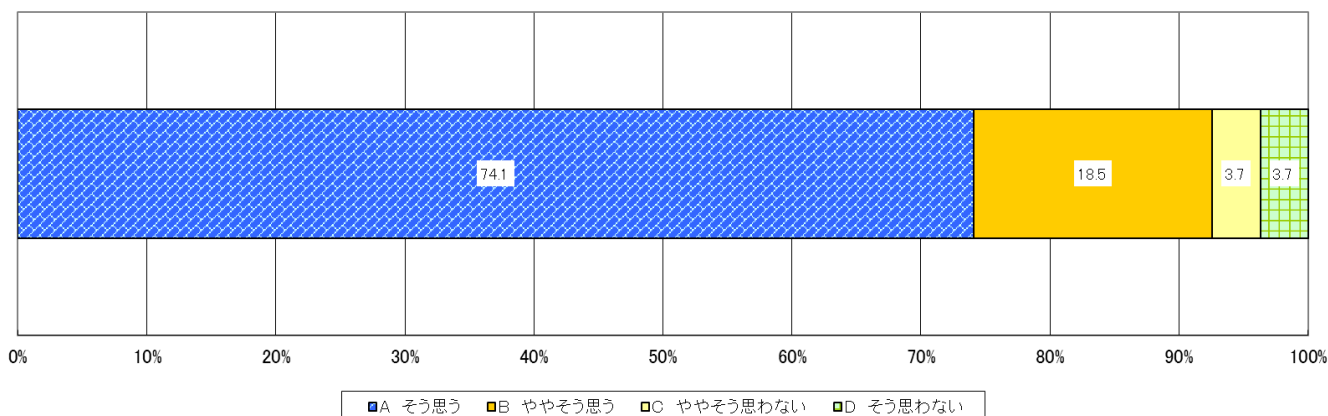
V 地域との連携について（保護者用アンケート等も含めて）

<達成状況>

- ・教職員アンケートで「あなたはPTA活動に主体的に参加しているか」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて92.6%であった。これに対し、保護者アンケートの結果は、「よく参加している」「参加している」が合わせて87.6%であった。教職員は各専門部等の事務局を兼ねるために参加意識が比較的高く、一方、保護者においては、参加意識に若干のばらつきがみられる。
- ・保護者や地域の方々による学習支援に関して、教職員アンケートで「教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす活動を行っている」の設問に対し「そう思う」「思う」が合わせて、84.0%であった。具体的には、総合的な学習の時間や生活科の学習で多くの支援を得ている実態がある。
- ・教職員のアンケートから、情報の提供に関し、「学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している」の設問に対し、「そう思う」「思う」が合わせて92.6%であった。学校だよりや学年、学級だより、HPを通じて、教育活動が積極的に発信されていることがうかがえる。



V-3 あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。



<改善策>

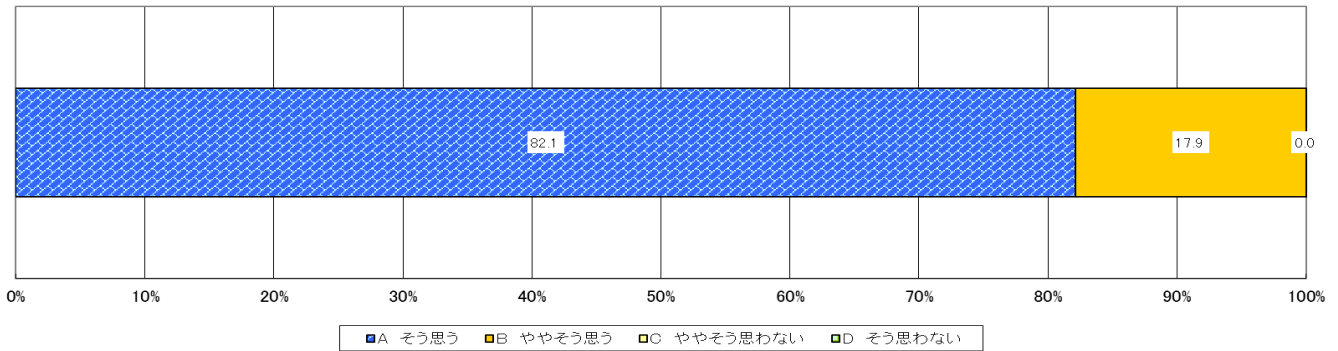
- ・教育に対して、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を担い、責任を持つためにもP T A活動については、保護者に主体的に関わってもらう必要がある。今年度も本会役員、専門部委員等を中心に協力をいただき学校行事や学年行事等予定通りに実施することができた。今後も事前の打ち合わせを綿密に行い組織体制で活動に取り組めるよう努めたい。
- ・P T A活動については、これまでの成果を生かして、引き続き参加意識の啓発と機会の確保を図りたい。また、各専門部の事務局を漸次移行していく方向については引き続き課題の一つとして検討していきたい。
- ・学習支援や学校環境保全、安全安心の確保など地域と一体となって教育活動を展開することにより、児童の学習意欲も喚起され、また、教師と子どものふれあう時間も増える。人材バンクの活用や現在ある学校独自のバンクの整備と活用をしていく。
- ・開かれた学校づくりのため、教育活動や学校運営の状況について、積極的に情報を発信してきた。今後学校への理解と支援を図っていくためにも、リニューアルされたホームページも十分活用して情報の積極的な発信を推進する。

VI 学校の特色に関して

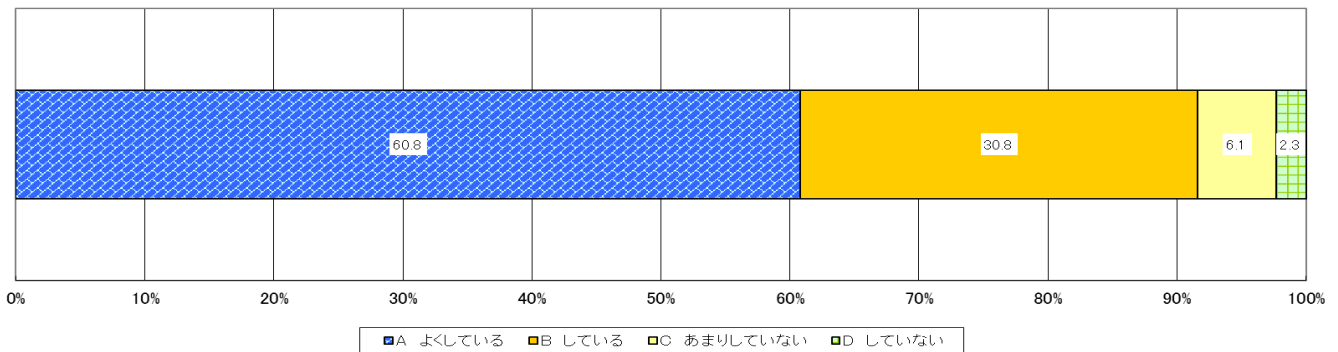
<達成状況>

- ・挨拶に関連して、教職員のアンケートで「進んであいさつするよう、指導に努めている」の設問に対し、「そう思う」「思う」が合わせて100%であった。児童アンケート「地域の人と出会ったらあいさつをしますか」に対し、「よくしている」「している」が合わせて91.6%であった。保護者アンケート「ご家庭では、家族で互いに挨拶するようにしていますか」に対し、「よくしている」「している」が合わせて97%であった。また、「地域の人々に出会ったら挨拶をするように言っていますか」に対し、「よく言っている」「言っている」が合わせて87.6%であった。学校、家庭での指導と実践を引き続き行っていく。
- ・保護者アンケート「学校は音楽活動に力を入れて取り組んでいると思う」に対し、「そう思う」「思う」が合わせて96.0%であった。全校合唱、音楽集会、合唱部の活動等、本校の音楽活動は地域や保護者によく理解され、高い評価を得ている。
- ・児童アンケート「清掃活動がしっかりできていますか」では、「そう思う」「思う」が合わせて96.2%だった。「無言清掃」など各種指導を取り入れてきた成果と思われる。

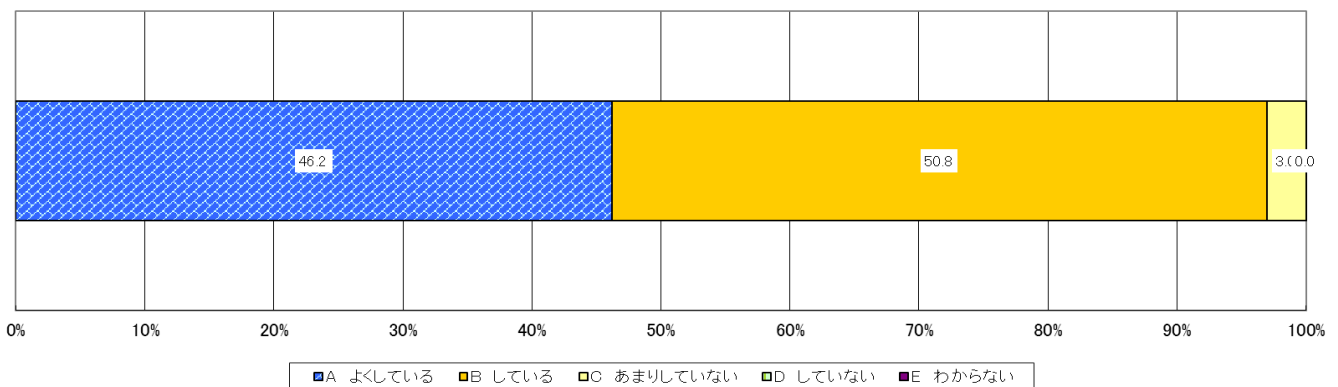
VI-1 児童生徒が進んで挨拶をするよう、指導に努めている。



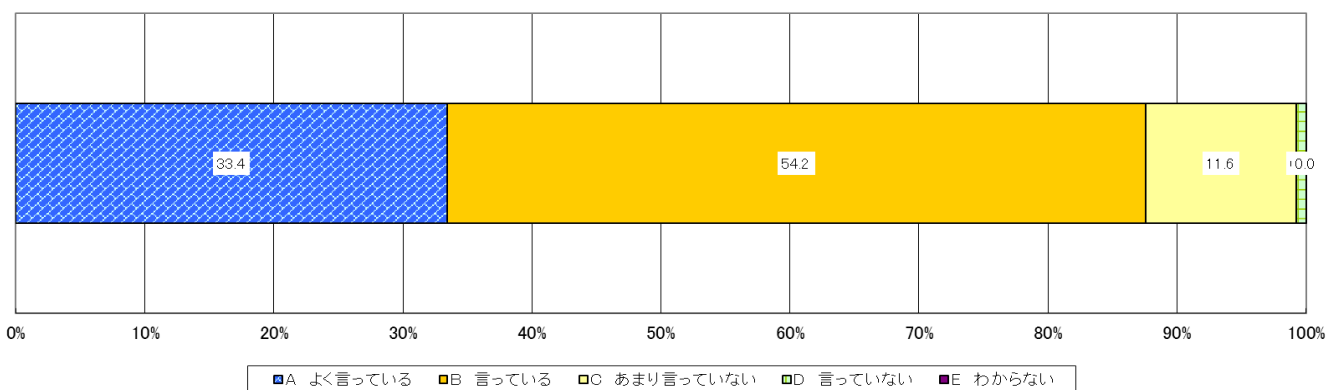
Q18 地域の人と出会ったらあいさつをしていますか。

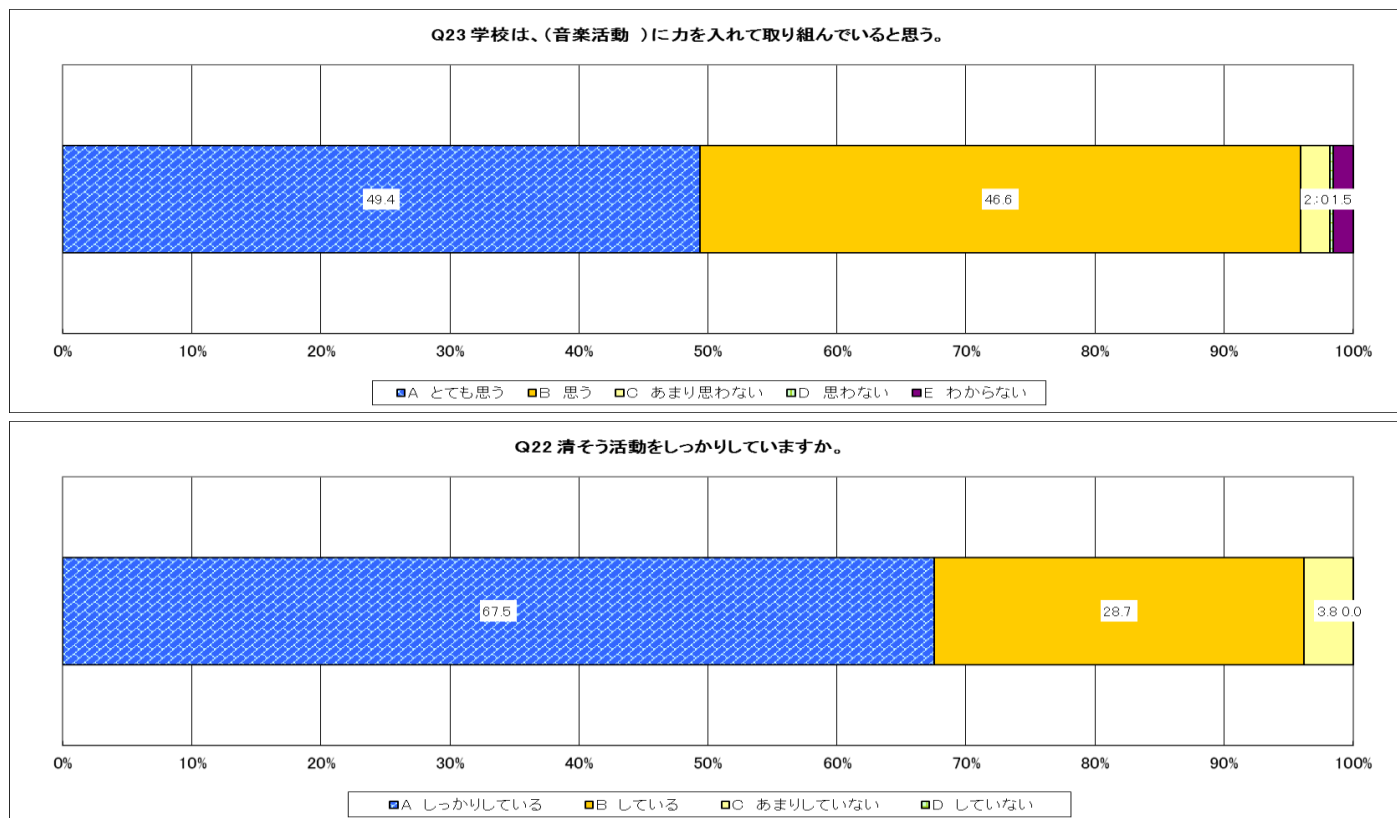


Q17 ご家庭では、家族で互いに挨拶をするようにしていますか。



Q18 ご家庭では、お子さんに地域の人々と出会ったら挨拶をするように言っていますか。





＜改善策＞

- ・職員会議や生徒指導委員会の機会に、挨拶への取組について共通理解を図り、その指導（朝や帰りの挨拶、職員室への用事の際の入り方と出方等）に努めてきた。このような取組を今後も継続し、あいさつが更にしっかりできる児童の育成を目指す。
- ・小中連携に関する取組で、あいさつ運動を行った。今年度は、試行的な実践であったが、来年度に向けての方向性も確認することができた。学校独自の取組に加えて、地域での取組も今後推し進めていきたい。
- ・本校の特色でもある異年齢グループのファミリーグループ活動は、放課後や週末における地域での異年齢集団の活動の減少を考えると、学校の教育活動として、欠かすことのできない活動であると捉えている。活動形態や内容の工夫を児童と考え、仲間づくりや思いやりの心をはぐくむことや運動の日常化を図る上で強化していきたい。
- ・音楽集会や合唱部の活動は集団への所属感と学校への誇りと愛着をはぐくむ活動として、本校の大きな特色ある活動である。今後も積極的に推進していく。
- ・日々の清掃活動の他、児童会活動としても「無言清掃」「校舎ピカピカ作戦」と銘打って清掃活動に取り組んできた。勤労意欲を維持し、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を育成する上でも、師弟同行を活動の中核に今後も取り組んでいく。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・今年度も教職員が学校教育目標の実現に向けて共通意識と協働精神とを持って教育活動や学校運営に取り組んできた。学校教育目標である「知、徳、体の調和のとれた、人間性豊かな児童の育成」の具現化に向け、校内研究や学年経営方針を核として児童への主体的な学習を促し、確かな学力を育むことによって、また新たに児童の学意欲を掻き立てていきたいと考えた。家庭学習の状況にその成果も出てきている。
- ・教育活動や学校運営の状況について、学校・学年・学級便り、ホームページ等で、積極的に情報提供したことで学校への理解を得ることができている。個人情報や情報セキュリティに配慮しつつ、さらにより良い児童の姿を求めるべく情報の共有化に努めていきたい。
- ・ファミリー活動（異年齢集団による縦割り活動）の内容の工夫と計画的な取組により、異年齢間の交流が深まり、それぞれの学年にふさわしい行動様式や自覚が児童に育ち本校の伝統となりつつある。アンケートや数値では読み取れない面もあるが、上級生が下級生をいたわる姿が校内において数多くみられる。
- ・学校は、児童及びその保護者に対して安全で安心な場でなくてはならない。職員が持てる力を十分に発揮できるような適材適所の人事配置に留意して、今後もP→D→C→Aサイクルをもとにした組織マネジメント機能が効果的に行われるように努めたい。

〈課 題〉

- ・教職員の自己評価や児童アンケート、保護者アンケートにより、教育活動や学校運営に対する実態を捉えることができた。学校評価結果を踏まえ、P→D→C→Aサイクルに基づいた教育活動や学校運営の改善を図ることが、家庭や地域に信頼される学校づくりに繋がる。絶えず問題意識を持ち、日常の教育活動に専念する必要がある。
- ・「あいさつ運動」では、小中連携した取組、児童と一体となった取組を行ったことで、挨拶だけではなく、日常の話し言葉も丁寧になり、場面にあった話し方も向上してきている。しかし、積極的なあいさつの実施にはつながっていない児童も見られるので、「人より先に、あいさつをする」「心のこもったあいさつをする」といった児童の割合を高められるよう今後も指導にあたりたい。
- ・いじめや不登校、規範意識や社会性の欠如、学力低下や学力格差といった児童生徒を巡る状況、少子高齢化や情報化・国際化の進展、環境問題等の社会の変化など、このような諸課題や現状に対処していくために、学校は家庭や地域と一体となって教育活動を展開していく必要がある。このため、開かれた学校づくり、責任ある学校運営、教員の資質・能力の向上は欠かすことができない。授業参観や懇談会の定期開催、PTA活動の活性化や学校評価結果の公表、積極的な情報提供、さらには、校内研究や自己研修の活性化に努める必要がある。